

学校だより



平成29年度 第33号

下野市立南河内中学校
発行者 日下田 英彦
H30. 1. 10

1月の俳句 真青なる初空仰ぎ初心

大橋 敦子

年が明け、2学期が再開しました。冬休み中、本校の生徒達は大きな事件・事故の連絡もなく、変わらぬ生活をしていました。3年生は私立高校の第1回目の入試が終わり、結果の発表が行われています。2年生は立志式・スキー宿泊学習の準備と忙しい時間を過ごしています。そして卒業式という中学校生活のゴールが待っています。

何度か紹介していますが、3学期制の高校ではこの時期は次学年の0学期として、新たな生活の準備を意識させているそうです。3年生は高校生になったつもり、1, 2年生はそれぞれ2, 3年生になったつもりで生活し、意識を高めたいものです。

1 学校評価のための保護者アンケート、協力ありがとうございました

12月に学校評価のための保護者アンケートを実施しました。お忙しい中、協力をいただきありがとうございました。これからの学校経営に反映できるようにさせていただきます。できるだけ学校からの情報を発信していますが、保護者の生の声を聞かせていただくことも参考になります。アンケート時にかかわらず、南河内中学校をよくするためのご意見がありましたら、直接学校まで、またはPTA本部の役員の方等に連絡をいただくとありがたいです。

学校だよりを利用し、全体の傾向や保護者の皆様のご意見を紹介していきたいと思えます。今回は学習関係についてお知らせします。

アンケートの評価は A…大変あてはまる B…当てはまる方が多い
C…当てはまる方が少ない D…あてはまらない の4段階です。

1 お子さんは、授業がわかりやすいと感じている。

A 13% B 66% C 17% D 4%
昨年 (A 8% B 69% C 19% D 4%)

2 お子さんは、意欲的に学習に取り組んでいる。

A 24% B 55% C 17% D 4%
昨年 (A 21% B 54% C 20% D 6%)

3 お子さんは、家庭でも学習をしている。

A 25% B 48% C 23% D 4%
昨年 (A 18% B 51% C 24% D 7%)



保護者の皆様からのご意見を紹介します。多数のご意見をいただきましたので、集約して紹介させていただきます。

1 お子さんは、授業がわかりやすいと感じている。

- 授業でわからないところが多く、それを塾で教えてもらう。できれば授業で理解させてほしい。
- 学年が変わってから、よくわからない教科がでてきた。どの教科も1年、2年の積み重ねが大事なので心配している。
- 教科によって差が大きい。
- 苦手教科では、授業の中で理解できないうちに先に進んでしまう。できる生徒が優先の授業になっている。
- 授業内容がわからなくても先生にきくことができない。

2 お子さんは、意欲的に学習に取り組んでいる。

- 自分から進んで意欲的にはやっていない。
- 家庭でも意欲的に取り組んでいない。習い事で、時間をつくらせていない状態だ。



3 お子さんは、家庭でも学習をしている。

- ・ゼロではないが少ない。
- ・勉強している様子がない。

授業のわかりやすさや学習意欲に関しては、肯定的な評価が昨年と比べて増えています。家庭学習については、「大変当てはまる」と答えた割合がかなり増えています。しかし、保護者の皆さんにとっては全体の数値ではなく、自分のお子さんの学習について心配されていますので、普段から遠慮なく担任や学年主任などに相談をお願いします。話しやすい教員や教頭に伝えていただいてもいいと思います。学校としても今後の取り組みについても参考にさせていただきます。

学校としては、授業研究や個別の働きかけを工夫しCやDの回答やご意見のような点をどう減らしていくか努力しているところです。気がついたときに連絡いただければと思います。

4 お子さんは、将来の自分の進路について考えている。

A 24% B 54% C 20% D 3%
昨年 (A 30% B 49% C 16% D 4%)

5 先生は、お子さんの能力や興味を大切にして授業をしている

A 20% B 69% C 10% D 1%
昨年 (A 16% B 68% C 12% D 4%)

6 先生は、お子さんの能力や努力を適切に評価している。

A 28% B 65% C 6% D 1%
昨年 (A 22% B 70% C 5% D 3%)

7 宿題の量は適切である。

A 20% B 57% C 19% D 4%
昨年 (A 15% B 66% C 12% D 6%)

4 お子さんは、将来の自分の進路について考えている。

- ・なりたい職業はまだ決まっていない。

5 先生は、お子さんの能力や興味を大切にして授業をしている。

- ・先生方は子どもの気持ちを理解しているのかなと思うことがある。
- ・興味のあることが少ない。

6 先生は、お子さんの能力や努力を適切に評価している。

- ・一人一役とはなかなか難しいと思いますが、これから子ども達が社会に行く準備のためにも、子ども達全員に何らの役を経験させていただければと思う。
- ・担任の先生は能力や努力をととても評価して指導してくれる。

7 宿題の量は適切である。

- ・宿題は、多めにだしてもよいのかと思う。出したものは取り組もうとしているから。
- ・なかなか自主学習をすることが苦手である。先生から具体的に宿題をだしてもらい、チェックしてもらった方がやる気がでるはず。
- ・宿題が少ない気がする。
- ・自学以外にも出してほしい。
- ・中学生なので、家庭学習が中心になると思うが、ある程度学習をしっかり理解するためにも、宿題という形で毎日取り組ませたい。



5から7の質問についても多くの方が肯定的な評価をしてくださり、また「大変当てはまる」の評価も増えています。しかし、4の「お子さんは、将来の自分の進路について考えている」の質問では、肯定的な評価が減っています。今後も協力して、お子さんの将来について、相談する機会を増やしていければと思います。次号でお伝えする、「学校は、将来の進路や職業について、適切な指導をしている」の質問ではA評価が増えています。今、なりたい職業を決めることが目標ではなく、中学生として将来や社会に関心を深めることが大切です。

宿題の量についても、いろいろな考え方があり、全ての生徒にふさわしい量はありません。平等な宿題の量と考えると、負担の多すぎない量であるべきでしょうし、生徒それぞれの目標や適性に合わせて柔軟に行うことができるものであることが、大切だと思います。